

化率はニカド76%、ニッケル水素77%、リチウムイオン53%といずれも法定目標率を上回った。

22年度事業方針には「安全で持続可能な仕組みと体質の強化」を掲げた。具体的な施策としては、①小型充電式電池のさらなる安全な回収・収集運搬業務の強化②再資源化業務（リサイクラー）の持続性強化③管理・運營業務の盤石化——に取り組んでいく。

AI自動選別ロボット AEPWプログラム2022で採択 —イーアイアイ—

ペットボトルや塩化ビニールを分別するイーアイアイのAI自動選別ロボットが、このほど、国際的なプラスチック廃棄物問題の解決に取り組む国際アライアンス「AEPW」の「AEPWプログラム2022」に採択された。今後、計15社で構成されているAEPW審査企業の化学メーカー、製造業と情報交換を経て、各企業との協業の可能性を検討していく。

粗大ごみ回収施設オープン 東京都日野市に回収拠点設置 —ジモティー—

個人間の物品売買や譲渡などを仲介するサイトを運営するジモティーは、7月1日から東京都日野市で「ジモティースポット日野」を開設した。

ジモティースポットは同社と自治体が連携してリユース拠点を共同運営する取組みで、今回は同世田谷区に次いで2例目。2021年10月からスタートした世田谷区での取組みでは半年間で1.2万品をリユースし、粗大ごみ削減効果は約68tとなっている。同スポット開設により、自治体はごみ量原料と共に、住民のリユース意識の喚

起などが引き出せるのがメリット。また、ごみ減量による経費削減効果も期待でき、世田谷区では年間1700万円の削減効果を試算している。

なお、今回開設したジモティースポット日野では、シルバー人材センターと協力し、集客の改善を図るとしている。

ホタテ貝殻のリサイクルで新商品 パウダーで野菜の不純物除去 —KULASIFUL—

FRP廃船、貝殻、廃漁網等が漁業関連分野の廃棄物問題になっている。これらの廃棄物に対応したリサイクル技術いくつか存在するが、とくにホタテ貝の貝殻の廃棄量は問題視されており、建築材料をはじめ、肥料や土壌改良剤、洗剤、ハミガキなど幾多のリサイクル手法がある。そのような状況下でキッチン用品の製造・販売を行うKULASIFUL（東京都千代田区）が不純物剥離除去効果があるとされるホタテパウダーの販売を開始した。同パウダーを水に溶して野菜をつけおくと不純物が除去できるという。粉状になったホタテパウダーは水に溶かすと強アルカリ性となり洗浄・除菌・消臭などの効果も期待できるとしている。

各地でリサイクル、リユースの取組み加速 横浜市内ドラッグストアで日用品空き容器回収 —テラサイクル—

マテリアルリサイクルやサーキュラーエコノミーを通じてごみ削減に取り組むテラサイクルジャパン（横浜市）は、日本各地でリサイクルやリユースの促進に向けた取組みを強化している。6月30日から日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）会員企業や主要日用品メーカーと連携し、横浜市内の31店舗で日用品の空き容器を